

令和5年度清流の国ぎふ野菜ファーストプロジェクト会議 議事要旨

- 1 日 時 令和5年7月12日(水) 14:00~15:30
- 2 場 所 岐阜県庁20階 2004会議室
- 3 出席者 清流の国ぎふ野菜ファーストプロジェクト会議
10名(別添出席者名簿のとおり)
保健所、農政部農産物流通課、健康福祉部保健医療課
- 4 議事内容
 - (1) 県民栄養調査の結果について
 - (2) 清流の国ぎふ野菜ファーストプロジェクト 今までの取組と今後の方針について
 - (3) 野菜摂取量の増加のための取組について(意見交換)
- 5 主な協議事項
次期岐阜県健康増進計画での野菜摂取量の増加に向けての方向性等について、関係機関や団体、企業の取組状況について意見聴取

○野菜摂取量を増やすために各団体等が実施している取組状況

今後他分野の団体・機関等と協働していきたい取組

- ・食育の日である毎月19日に啓発活動を行っている。また、6月に健康フェスタを行い、野菜摂取量の増加と減塩についても啓発を行った。“減塩くん”というデジタルの測定器で塩分濃度を測り、また、血圧も高い方には、食事についてアドバイスをを行った。
- ・昨年岐阜県と関連企業と一緒にイベントを実施した。アプリを活用し、インセンティブを設けた取組を実施した。購買によりポイントつけていくという形で実施。見る機会を増やし、ポイントを付与することで購買してもらい、少しでも野菜摂取量の増加につながればと実施した。1年に1回やって終わりではなく、定期的な取組が必要。お客様の声を知れたので、継続的にやれると良い。
- ・お客様に対するアプローチでの課題は、実際野菜をあまり食べたことがなく、料理の仕方もわからない社員の教育がある。野菜を食べていただくための売り場作りを行うため、実際に産地を回り、生産者の声を聞き、料理の仕方も勉強することで、育てている。
- ・お客様と社員の両輪で取組を実施している。最近野菜は1年を通じて売れている感触はあるため、継続的に取組行っている。
- ・健康に無関心な方でも、自然に健康になれる環境づくりとして、管内のスーパーマーケットを対象に、たっぷり野菜しっかり減塩キャンペーンを実施予定。レシピに使われている野菜と減塩調味料をセットにして売り場に置いていただくことを、単発ではなく、長期間とし、4か月程度実施予定としている。
- ・今後取り組んできたい内容は、お惣菜で、たっぷり野菜しっかり減塩のものを置くなどして、知らず知らずのうちに野菜が摂れ、減塩にもなる環境づくりを取り組みたい。

○働き世代での野菜摂取量増加に向けた取組

- ・働き世代のお母さんたちは野菜が必要とわかっているもおそらく野菜を食べていない世代のため、子供たちに教えることは難しい気がする。野菜を摂れる工夫を親子で調理な

どと一緒に楽しむ機会があると子供たちが成長した後も食べてもらえると思う。

- 店では、野菜中心の惣菜も多いが、若い男性の方が値段を出して、買っている姿をよくみる。女性は、ジュースとかサプリメントとかに頼りがちとを感じるが、男性は体を作ろうという考え方がその家庭の環境もあると思うが、そういった方を見受ける。
- 減塩とか野菜がたくさん摂れる、誰もが実践できる環境づくりが必要。
- 市町村の栄養士として、乳幼児健診母子手帳交付から始まり、若い世代の方たちに、成長に野菜がどれだけ大切かを話している。成人の方にも国民健康保険の方に保健指導を実施している。保健指導対象になっていない市民の方へも発症予防において、野菜が大事ということの普及啓発を毎年様々な方法で実施しているが、なかなか改善しない。
- 働く世代でなかなか野菜の摂取量があがらず、塩分摂取量も多い。高血圧が多いということが、重大な問題の一つで、野菜摂取量と併せて減塩活動にも力を入れている。働く世代の方々は、社保の方が多い。実際に健康増進推進事業所という形で、社員の方向けに健康教育を行っている。尿中塩分から、塩分摂取量を測定し、また、健診結果の見方から、毎年の経年での結果を健康相談で話している。始めたばかりだが、働き世代の方へ野菜摂取、減塩も合わせて、実施しているが、実際増えてこない。
- 野菜が高いと生活に必要なものを購入し野菜を買わないという話を聞く。野菜を摂らなくても良いと思っている人はいないと思う。ただ手間がかかるとか、家族が食べないなどにより野菜の優先順位が下がる。時間や手間をかけなくても摂取できる方法や、安定して購入することができれば、自然に野菜を摂取することが習慣化すると思う。
- 安価というと規格外の野菜を安く売るといような方法があるが、それが大きくなると、市場流通している野菜を購入する機会が減り、経済全体に影響がでる可能性がある。消費者からすると、安価に購入できると良いが、農家の手取りが減り、商業施設等での商品が売れなくなることに繋がる。
- 働き世代として野菜をあまり食べてないことを自覚している目線からだど、目の前に、野菜をたくさん使った料理があれば、野菜を食べた方が健康に良いことは理解しているため、食べる。しかし、働いて帰った後、料理作る時間もなく、野菜を食べてない。例えば中食や外食で、野菜たっぷり減塩メニューが、気軽に安価に買えると良いと思う。
- 加工した商品を幅広く取り扱っており、皆様に活用していただければ、野菜の摂取の増加に繋がると思う。現状として値段が高いといった部分で、手に取っていただけない。
- 野菜が摂取できる商品を、ネーミング等でわかりやすくしお客様にアピールする商品の開発などに取り組んでいる。
- エコ割というもので、賞味期限が間近の商品を安く提供する取り組みをしている。コンビニの商品は、定価で販売、高いイメージがあったと思うが、廃棄、食品ロスが大きな問題になっているため、エコ割として少し値引きをしている。今後も活用していただければ、少しでも安く手軽に、野菜摂取の増加に繋がるとは思っていないかと考えている。
- ベジチェックなどを通じて、子供たちと親も含めて、親子で意識が高まり、理解が増えていくと良いと思った。学校でも子供たちが考えた料理など、野菜料理も含めて、給食に取り入れている。通常の給食と比べ、興味の持ち方が違う。家で作るとなると親子で

ということが大きいと思う。機会をとらえて、関われる環境が増えていくと良いと思う。

- ・ベジチェックはその日食べたものがすぐ出る結果ではなく、普段食べている結果が出るため高齢者から、お子様まで興味を持ってやってもらえるため、イベントで活用したい。

○たっぷり野菜しっかり減塩に向けた取組

- ・野菜は素材のだしが出るので、だしをきかせて、塩分が少なくなることを子供教室とか保育園に行き減塩活動を行っている。野菜から自然にただしで野菜をたっぷり入れた野菜スープを作り、おいしさを実感できるような啓発を親子の教室で企画している。
- ・岐阜県の健康ポイント事業と合わせて、市内のポイント事業も行っており、そこで減塩商品の利用を健康ポイントで行っている。減塩商品を使用したレシピ開発を、団体にお願いし、減塩商品を扱っている店舗で、手軽にできるレシピを、商品と一緒に提案することを、今年度初めて市民の方に目に見えるところに置いて実施している。
- ・食塩を知らずに摂りすぎている方も多いと思う。外食先のサラダのドレッシングが多いとか、小鉢の味が濃いと思っていても出たものは、食べる。もっと減らせるということを減塩に興味がなく、必要ないと思っている方でも、インセンティブなどをきっかけとし、ドレッシング等がなくても食べられることに、気づく機会になると良いと思った。
- ・野菜を多く販売することで、結果に結びつけたいと思っている。様々な業者さんと繋がりを持ち、野菜摂取の推進のため、コラボをしてやっていきたいと思っている。
- ・コロナが開け、売り場での試食宣伝が解禁となった。お客さんと話をしながら、野菜を売っていく、食べ方への啓発などにより、地域の野菜を販売していきたいと思っている。
- ・2024年問題で働き方改革等があり、遠方からの野菜が入りにくくなる。岐阜県を中心とした近隣の野菜を販売し、野菜摂取増加への取組にも寄与したいと思っている。
- ・各社皆、野菜を取るための手法野菜をとってもらうための啓発活動とかはすごく頑張っている。本当に350グラムを目指したいのであればベジチェックの話であれば、県として、いろんなところで活用していく。例えば学校から始まり、我々消費者のところで、施設のイベント等目にとまるような形でやっていく必要がある。今年度で第三次ヘルスプランぎふ21が終わるため、次のステップに行くには、良いと思ったことはどんどん取り入れ、それを必死にやるのが一番良いと思う。プラスになることをやらなければならないため、ベジチェックに対して本気になってやれば良いのではないかと思った。
- ・岐阜県は、農地はたくさんあり、スーパーマーケットで買うのも一つ、地域に行けば手に入るところもある。その中で、野菜に手が伸びないのはなぜか。親も忙しくなってきたため、料理ができなくなってきた。中食を利用という方法もあると思う。子供が頑張っていれば親も頑張る。やはり子供を巻き込むことも一つの方法だと思った。楽しみながら親子で食べるということは大切なキーワードである。
- ・野菜を摂れば、食塩の摂取は増える。しかし、過剰に摂取した食塩を排泄させる意味でも野菜は大切であるということも発信していかなければならない。食べたならどう排出するかも発信していく、それが野菜にはできると発信する。

令和5年度清流の国ぎふ野菜ファーストプロジェクト会議 出席者名簿

団体名	役 職	委員氏名
岐阜女子大学	教授	藤田 昌子
岐阜県農業協同組合中央会	協同活動推進課課長	大島 晃明
岐阜県食生活改善推進員協議会	副会長	山本 さちよ
公益社団法人 岐阜県栄養士会	理事	酒井田 環
岐阜中央青果株式会社	上席執行役員	若曾根 隆宏
株式会社バロー	課長	井上 直人
株式会社ファミリーマート	営業業務グループ	山田 国輝
株式会社デリカサイト	執行役員情報本部長	佐竹 輝美
市町村保健活動推進協議会栄養士部会	部会長	山下 肅恵
岐阜県学校栄養士会	会長	川瀬 朋美

【陪席】

農政部 農産物流通課	技師	吉川 周作
岐阜保健所	技師	加納 里華
西濃保健所	技師	遠藤 珠音
関保健所	技師	高見 真生子
可茂保健所	主任技師	中島 美冴
恵那保健所	非常勤管理栄養士	鷹見 朱里

【事務局】

岐阜県健康福祉部保健医療課	課長	井上 玲子
	係長	山本 敦弘
	技師	前田 めい